

短期間に多収の出来る

つくり易いイタリアンライグラス

い青刈類はあまり根はありませんが、イタリアンは地
上部を上廻る根を土地に残し、耕土の若返りをしてく
れます。

(一)

イタリアンライグラスの栽培はどうしてこん

なに急に伸びたか
ラデノクロバーの普及も急速ですが、それを上廻るような伸びをみせてるのが、イタリアンです。一体イタリアンにはどんなヨサがあるのでしょ。

(a)

短期間に旺盛な生育をする

北海道でも夏作跡地に栽培して、秋までに約三〇〇〇匁の草が得られ、暖地では水田裏作、畑地裏作にどんどん組入れられる生育の速さをもつてします。

(b)

各種の混播に適している

生育の早い麦類やベーツチ、レープ等に混播しても競合に負けず共々生育して行く。

(c)

不耕起栽培にも向く

水田や畑を耕起せず播種しても充分な生育をし、播種労力がかからない。

(d)

発芽当初相当期間日陰に耐える

稻の立地中に播種して一ヵ月も一・五ヵ月もの間日陰に遭つても稻刈後よく回復する。従つて他作物では裏作期間の短い場合でもイタリアンは充分です。

(e)

耐湿性に富んでいる

裏作の困難であつた湿田で良い生育をし、寒さの強い所では灌水栽培で生育の促進を図ることも出来ます。

(f)

雑草に負けずに生育する

水田のスズメノテッポウ等は一向苦にせず生育し、却つて雑草を抑圧します。細く膨大な根を跡地に残す。兎角生育の早

(二)

イタリアンの上手な使い方

寒冷地の夏作跡地への播種
麦類、亜麻等の跡地が空く場合は刈取り一ヵ月前に立毛中に反当一・五匁位播種しますと十月上旬までに三・三、八〇〇匁位の採草、放牧地となります。

北陸地方の水田裏作で、稻の刈取り一ヵ月前（落水直後）一・二・五匁を撒播しますと年内一回、翌春一・二回刈りで七、五〇〇匁位とれます。

暖地の秋播燕麦の冬枯れの心配のある地帶では、エン麦、ベーツチ混播に更に〇・五～一匁のイタリアンを混ぜ播きすると、年内はエンバク、ベーツチで採草し、翌春は燕麦は枯れてもベーツチ、イタリアンで多量の草が得られます。

東北地方の冬期灌水の出来る場所では反当三・四匁を稻刈取り一ヵ月前に播種、積雪と共に灌漑しますと、早春最も早く青刈りとして利用または繫牧が出来ます。

東北地方では早期稻の跡地に九月上旬播種で十月下旬～十一月上旬収穫で約四、五〇〇匁以上的青刈りが得られます。

春まきデントの刈取り一ヵ月前に、畦間に一・五～二・五匁のイタリアンを播種し年内に三、八〇〇匁近い青草は東北でも収穫してい

一青刈玉蜀黍の多収法一

(g) 永年牧草に混播し（反当〇・五匁程度）初期収量を挙げ、同時に永年草への腐植質の補給をはかるためにも有効です。

栽培容易で、初霜迄二～三ヵ月の生育期間

をとると四、〇〇〇匁以上の生草が得られるところから、最近は、玉蜀黍の夏播き、秋播が各地で行われるようになつて来ました。即ち玉蜀黍の時無し栽培法はドンドン普及しております。

玉蜀黍の時無し栽培の多収のコツは次の通りです。

(a) 畦幅は麦類と同じ位の四〇糢～六六糢位とすること。

(b) 施肥はなるべく速効性肥料を用いること。

(c) 品種は発芽後六〇～七〇日位迄の生育は寒冷地採種の早生系エロー（黄色種）が早いので、生育期間三ヵ月位で青刈されること。

(d) 播種量は反当一五リットル位の厚播きがよく条播か、一六・七糢株間の二三本立が多い。

(e) 各地の栽培例を拾つてみますと、五、〇〇〇匁位の収量をあげられる。

(f) 北陸地方では早期稻の跡地に九月上旬播種で十月下旬～十一月上旬収穫で約四、五〇〇匁位の収量が期待できる。

(g) 西南暖地では八月下旬播種で、二ヵ月後の十月中旬下旬から四五、六〇〇匁に及ぶ豊富な青刈りを得ております。

良質多収の秋播青刈豆科

ベツチと豌豆の栽培

(一) ベツチ類の飼料特性と種類

ベツチの緑肥としての栽培は古くから行われており、裏作或いは間作として多くの青草を得て窒素質の緑肥として利用していましたが、これは飼料としても蛋白質に富んだ生産飼料であることがあります。ベツチ類には幾つかの種類がありますがどんな特性をもつたものがあるでしょう。

(a) ヘヤリーベツチ(サンドベツチともいう。)

耐寒性に富み東北、北海道の積雪地でも充分冬を越し、病害に強く主として関東以北の



麦類とベッヂ混播

(三) 混播ベツチの生育を旺盛にするには

(八)

(b) 桃しづれ和作物と混播した方が有利です
(1) 多収品種を選んで
一般には実取兼用の赤花豌豆を用いてお
りますが、これは在来の豌豆の中では最も
多収で割合に飼料用としては早生ですから

(四)

(a) 豌豆もベツチと同様混播で
豌豆もツル性の作物ですか

(1)

豌豆もツル性の作物ですから、ベツチと同様いね科作物と混播した方が有利です。

(イ) 一般には実取兼用の赤花豌豆を用いておりますが、これは在来の豌豆の中では最も多収で割合に飼料用としては早生ですから収穫も早くなります。

(ロ) 積雪寒冷地では耐寒性のオーストリアンワインターレビーが有利です。北海道でも秋一ヶ月春二ヶ月の生育で二、三ヶ月で三、四

(八)

○○厄の収穫があります。

西南暖地の秋播用としてお奨めしたい品種で今秋より試作用として販売致します。

(c) 主として暖地の秋まきに利用される葉の大きな生育の早い作物です。
その他に雪割ベーツ、ウーリーボッド等も一部

(b) (a) ベツチの播種を多少早目にするか。
交互畦に播種するか。

(c) 最も簡単なのは窒素肥料を控え目に施すこ

(四) 早春もつとも早く利用出来る豆科青刈豌豆の栽培

ベツチよりも一ヶ月近くも早く利用出来るのが青刈豌豆です。関東地方の水田裏作に例をとつてみると、四月上旬にはソラ豆と共に青刈豌豆が利用出来、紫雲英は五月上旬、ベツチは五月中、下旬となります。即ち青刈豆科の早春からの利用順序は、ソラ豆、豌豆——紫雲英——ベツチ、クロバーとなり、もつとも早春に利用出来るのが豌豆です。